



季美の森整形外科
関根 康浩 理学療法士

リハビリ治療とトレーナー活動の両輪で活躍する物理療法機器

千葉県大網白里市の広大な敷地内に、充実したリハビリ環境を誇る季美の森整形外科。高齢者や術後の患者様中心の本館、若年層やスポーツ疾患を中心とした別館があり、理学療法士とトレーナーが協力しながら患者様の様々なニーズに対応しています。痛みに対するアプローチだけでなく動作改善やパフォーマンス向上に対し、充実したリハビリテーションの提供に取り組んでいます。

貴施設が地域で担う役割や、施設のコネクトについてお聞かせいただけますか？

当院は外来クリニックとして、主に周辺地域にお住まいの方々が日常生活を送ることが困難になった方の治療とリハビリを中心にしています。2018年に増設した別館ではスポーツ選手やアマチュアアスリートなど活動性の高い方を診ています。痛みで思うように体を動かせない、いつもできていた動きができないという症状に対して、専門家の観点から痛みの原因追求に重きを置いて根本から改善することを目指しています。



別館ではスポーツ選手やアマチュアアスリートを診られているとのことですが、スポーツに特化した施設をつかった理由をお聞かせください。

当院をはじめ、医療・介護・福祉施設を運営している医療法人社団鎮誠会では、以前から外部でのトレーナー活動にも力を入れていて、その活躍の場を広げ、悩める選手たちの力になるために新たに別館を設けました。一番のこだわりは、運動中の動きを再現できる大きなリハビリテーションルームです。実際に屋内でもボールを投げたり、蹴ったりできる広さが自慢です。屋外には陸上競技用のタータンを敷設して、短距離のダッシュができるようになっています。屋内に設置したティーネットは、野球やサッカーだけでなくゴルフでも使用しています。当院のある千葉県は、プロも含めてゴルファーの数が多く、ゴルフに起因した怪我を抱える患者様も多いからです。また、体を動かしやすくする設備だけでなく、それらの動きを計測してリハビリの評価を行う機器の充実も図っています。

どのような患者様が多くいらっしゃいますか？

別館ではスポーツ選手を中心に診ていますが、全体的には30～40歳くらいのいわゆる働き盛りといわれる活動的な世代の方が多いです。本館の方では、逆に活動性の低い高齢者や強い痛みがある方を診ています。また、治療後に疼痛を訴えてうまく動けないという方のリハビリを本館で重点的に行い、痛みが少なくなってきた方の活動性を上げて生活の質を向上させるお手伝いを別館で行っています。それぞれ明確に分けるのは難しいですが、概ねそのような役割分担で治療とリハビリを行っています。

貴施設のように一ヶ所で様々な症状に対応できる施設は少ないと思いますがいかがでしょうか？

同じ敷地内に回復期の病院があり、日常生活を送れなくなった方がそこで治療をして、回復してきたらこちらに来てリハビリを行うという流れもできつつあります。双方で該当する患者様がいらっしゃれば敷地内でスムーズに移行できる点は、患者様にとってもメリットだと思います。当院は地域密着を理念に掲げており、地元の方が「ここに来たら痛みに対する悩みのほとんどが解決できる」と思っているように努めています。

どのような物理療法機器をお使いですか？また、どのような理由でお選びになられたのでしょうか？

超音波治療器や電気刺激装置など、さまざまな刺激を与えられる機器を活用しています。基本的に手技だけではなく、いろいろな刺激を入れた後、運動療法に展開しています。手技では届かないところに届いたり、刺激の大きさを調整して患部やその周辺に良い変化を与えたりできることが物理療法機器を導入している大きな理由です。



導入して良かった点はありますか？

伊藤超短波さんの担当者が製品導入後に研修を行って来て、実際の使い方と効果をセットで紹介してくれるのでありがたいです。私たちが大学や専門学校で習って来てそれなりに効果は知っていますが、実際に変化を目の当たりにすると「こんなに違うのか!」と感動します。超音波も単に温めるだけでなく患部を両側から挟み込んで当てることで、筋肉の緊張が緩む速度の違いを見られたりするので、実感を持って理解できます。若いスタッフが筆頭に、その後の治療に好影響を与えて来ています。それから耐久性と安全性の高さ。毎日多くの患者様を治療する上で、スタッフが安心して使えるのは大きなメリットです。



関根 康浩 理学療法士

2010年新潟医療福祉大学理学療法学科卒業。2009年同法人のクリニックに実習で来た際、「原因追及」する姿勢に惹かれ入職を決意。3年目から副主任を経験し、同グループクリニックや回復期病院のリハビリテーションを経験。並行して大学バドミントン・高校野球強豪校のトレーナーチーフを歴任。現在は、4診療所のリハビリ科を束ねる統括科長として勤務。「熱心」をモットーに、患者様や選手に向き合っている。



先ほどお話しにあったトレーナー活動でもご活用いただいているのでしょうか？

全てではありませんが、物理療法機器を積極的に取り入れているトレーナーやスポーツチームもあります。私が以前に携わっていた野球部では、大会期間だけ機器をお借りしたこともありましたが、大会中は怪我をする選手も多いので、短期間で筋肉を緩めたい、コンディションを良くしたいという場面で大変助かっています。トレーナー活動の現場で得た効果や知識を、当院で行うリハビリテーションに還元することもあります。スポーツの現場で効果があったものを患者様に試してみたり、患者様への治療で良かったものをスポーツ選手に試してみたりと、物理療法機器は両方にまたがって活用できるので使い勝手の良さを感じています。運動機能が低下してくる高齢者の方に対する知識や経験が、スポーツ選手が怪我で運動できない時の対処法に活かせることもありますし、逆もまた然り。さらに、同じ機器でもそれぞれの状態によって強度や使い方も変わってくるので、セラピストの力量を高める上でも大いに役立っています。

患者様の評判はいかがですか？

筋肉の支配神経に立体動態波で刺激を与えた際に、「力が入りやすくなった」や「軽くなるようになった」という声はよく聞きます。これはエネルギーが筋肉の奥の方まで届いている結果の表れだと思います。リハビリテーションルームで体を動かしてもらっても、パフォーマンスの向上につながっていることが分かります。

最後に、弊社や物理療法機器に期待することはありますか？

これからも他の現場で使ってみただでの効果や、新しい使い方があればどんどん教えていただきたいです。私たちもいろいろ試した結果をフィードバックして、お互いに協力しながら患者様にとってより良い物理療法を提供していきたいと思っています。